

「SDN ワーキンググループ」 設立企画書

2019年12月21日

諸角 昌宏

本書は、SDN ワーキンググループ（以下、SDNWG と記述）の設立にあたって、その概要および活動方針を示す。

1. 目的

クラウドを構成する仮想ネットワーク環境において、SDN が利用される状況になっている。CSA のクラウドセキュリティガイドンスにおいても、VLAN によるネットワーク構築の限界、特にスケーラビリティとセキュリティにおいて、が記述されており、これらの課題を解決できる SDN の利用を推奨している。しかしながら、そもそもの SDN の定義やクラウド環境での利用方法、また、利用した場合の課題などがガイドンスから読み解くことが難しい状況である。SDNWG では、SDN を技術的に解説し、SDN のクラウドへの利用方法および優位性を解説し、ガイドンスでは理解しきれない点をカバーしていきたい。ガイドンスに関する SDN の解説書的な位置づけとなるようなアウトプットの作成を目指して活動していく。

SDNWG の活動を進めるにあたって、SDN の知見の深い会員企業であるネットワンシステムズ様の協力をいただき中心的に活動していただくとともに、CSA ジャパン会員にも幅広く参加を求めて、より良い活動にしていくこととする。

2. 活動方針

SDNWG は、クラウドにおける SDN の利用に関して、以下のアウトプットを作成することを目標とする；

- ① CSA ガイドンス 4.0 の 7 章（インフラストラクチャセキュリティ）の中のクラウドネットワーク仮想化(7.2) で記載されている内容の解説。
- ② 必要に応じて、8 章（仮想化とコンテナ）の該当するコンテンツも盛り込んだ内容。

上記のフォーカスポイントとして、以下を考慮する：

- クラウド環境でのネットワーク仮想化(VLAN、SDN、NVF)解説
- クラウド環境でのネットワークセキュリティ
- アプライアンスの限界
- 仮想アプライアンス、ホストベース、その他
- クラウド環境での SDN の利点(セキュリティを含む)
- マイクロセグメンテーション

3. 活動計画

① 2019年度末(2020/5/31)までの活動

- SDNWG 立ち上げ(2020年1月)
参加メンバー募集
- 第1弾アウトプット公開(2020年5月)

② 2020年度(2020/6/1~2021/5/31)の活動計画

第1弾アウトプット公開後の活動については今後検討し、2020年度計画に含める。

4. 活動にかかる費用

当面、SDNWGの活動に関する予算計画は持たない。

活動費用が必要になった場合に、事前に計画を立て運営委員会の承認を得ることとする。

5. 設立時メンバー(敬称略)

- ① SDNWG リーダー： 栗田 晴彦(ネットワンシステムズ)
- ② 初期メンバー： 石井 啓介、榎本 真弓、大澤 能丈、片岡 武義(ネットワンシステムズ)
- ③ 事務局： 諸角 昌宏

以上